

## 四谷のお祭りとお谷担ぎについて

四谷のお祭りは、江戸時代より稲荷山宝蔵院天王社として四谷天王祭と云われ江戸5大祭りのひとつとして大変な賑わいをみせ、二基のお神輿が六月十八日に上町を巡行し、お仮屋に安置され翌日には下町を巡行していました。

「四谷担ぎ」は、近年「江戸前担ぎ」(マンボ担ぎ)が台頭してからそれを区別するため昔より習い伝えられてきた担ぎ方を称する様になった。

「四谷担ぎ」の定義として伝える文献などなく、古老から若い衆に習いつたえられたものではっきり(定義)されていないがここで簡単に定義付けを試みたいと思います。

1. 躰は、神輿を中心にすこし寄りかかる様に肩を入れ、腰をのぼす事を心がける。
2. その時、手は基本的に台棒を支えるが、疲れたら腰に当てる様にしてぶらぶらと遊ばさない。花棒は、両手を首のうしろの棒を支える。
3. 足は、スリ足でひざを深くまげないように歩くように進む、花棒は足をつっぱる様にする。
4. 神輿は、左右に振れるが一人が胴の中にはいって前進を促すようにする。
5. 担ぎの掛け声は、昔からの「サッサッサー、サッサッサー」「ドシタイ、ドシタイ」を中心に「オイサ、ホイサ、チョイナ」などいろいろと合い混ぜてもよい。
6. 担ぎ手は、神輿(台棒)の上に乗らない事が四谷のお祭りの伝統である。(頭を除く)又、神輿の差し上げで四谷では、(台棒でなく)台座を差し上げる場合もある。

最後に、近年こそ「四谷担ぎ」と呼んでいるが、もともと江戸城下の祭礼は「ワッショイ」で担いでいたらしく、「四谷担ぎ」もその流れをくんでいるらしい。

現在では深川富岡八幡宮がワッショイで担いでいる。又、「四谷担ぎ」と同じ担ぎ方で熊野神社の「ちどり担ぎ」がある。